

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 27 号

発行日
2024. 5. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「今を生きる力」ツルゲーネフは、黙して語らず!!

久しぶりに、ネット記事から離れた話題となる。実は、本日(8日)、過日突然外れた(壊れた?)三連入れ歯の差し替えで、行きつけの歯医者に行ったのであるが(これで、当分は大丈夫?)、偶の独り昼食をと思い、ある意味懐かしい「ツルゲーネフベンチ(私が勝手にそう呼んでいるのだが!何故なら、そのベンチには、「疲れたら休め、彼らもそう遠くへは行かない」という、ツルゲーネフの、おそらく有名な作品の二節が書かれている。)の方に歩いていった!

もちろん、今回は、その近くのうどん屋さん(丸亀製麺)に行くためであったが、そのベンチで、一頻り、持参していた自作資料(古代史関係)を読んだ後、ふと近場の立看板を見てみると、そこに、何と、あの五木寛之氏の講演会の案内掲示がしてあった!期日、場所等は、当然?目に留めなかったが、何故か、その講演テーマには見入ってしまったのである!そのテーマとは、「今を生きる力」であったが、まさにそれは、時宜を得たテーマである!!ちなみに、そのベンチは、その看板(講演会案内)を立てている事務所(確か税理士関係?)のもので、そのさり気ないウィットと、今般の時事意識は、流石であると、改めて感心もした次第である!!

ただ、そのテーマであるが、ふと思つたのは(これが、そぞろ歩きの意味?)、「今(の時代)を」なのか、それとも「今(の自分)を」なのか?その双方の意味合いがある!!まあ、どうでもよいことであるが(先方には無縁のこと?)、私からすれば、前者は甚だ難しく、後者は、ある意味私的なことなので、どうにでもなる!!そういうことであるが、傍らの?ツルゲーネフさんは、ただ黙して語らずではあった!

○やはり、Kさんのことは書いて置かねば!!しかし:

ところで、このことについては、もう、ここでは書くこともないと思っていたが、あることを絡めて書けば、多少は面白くなるかな?とも思い、敢えて書いておくことにする!そこで、まずは、そのあることであるが、それは、例の、私の受賞に関わったことである!かなり日数も経っているのですが、まさかこんなことがあるなんて夢にも思ってもいなかったが、Kさん(彼女は、以前、退職大学院生として顔を見せていた!ただし、ゼミ生ではない!)から、豪華な百合の花(カサブランカ)、そして、手紙が送られてきたのである!

ただし、事前に、彼女が、私の住所を知るために、県教委の方に照会の電話をしていたことは聞いていたのでも、贈り物、そして、その後の手紙(お礼の電話をした時に、その手紙のことは知らされてい!)、それら自体には、さほど驚きではなかった(むしろ申し訳ないという思いが強かった!)!!いずれにしても、何という心遣いなのか!彼女の思いとか優しさとかが、身に染みて感じられたというところである(もちろん、手紙の文面からも)。

とは言え、これだけの話であつたら、それこそ辟易ものとなるので(Kさんには申し訳ないが、私の自慢話に終わる?)、それへの「オチ」も加えておきたい!要は、珍しく私が、手紙を書いたということであるが、しかし、それは、自筆のそれではなかったということである!!!最近、指の動きが思わしくなく、書くにも嫌な思いをしていたが、意を決してパソコンで作成!何とも情けない話となったということである(達筆な人が羨ましい?)!

○これもまた嬉しい話ではあるが、今度はとんだ思い違い!!

ところで、昨日(10日)、いつも集まってくる、例の最後のゼミ卒業生達が、それなりに久しぶりに、我が家(岳陽舎)を訪ねてきてくれた!金曜日であつたので、かなり遅くからの来訪であつたが(だから、多少近隣に迷惑を掛けたかもしれないが?)、賑やかで、楽しい時間を過ごさせてもらった!マックスで11人(二人は「参加」だつたと思つたが、最初来訪の知らせを受けた時は(かなり以前!)、何の目的で、誰らが来るのか、分からなかったが聞きもしなかった!)、今度は、とんだ思い違いがあつたということである(これもまた、オチと言えば、まさにそうであろう?)!

改めて、それは、彼らが、何のために集まって来てくれたのかという理由である!前日の連絡で、かなりの顔ぶれであることは分かっていたのであるが、ひよっとしたら、かの私の受賞のことで、改めてお祝いをするためと、勝手に類推していたのである!だが、あにはからずや、私の誕生日祝いだということが、その席の途中から分かつて、独り苦笑した次第だということである(余計なことであるが、多分彼らは、新聞記事を読んでいない?)!

ただし、それにしても、かなりの日数が過ぎているので(先月17日)、何か複雑な思いで、彼らの祝福を受けた私であるが、何の節目でもない今回の誕生日(72歳)を、このように祝つてくれた彼らには、喜びはともかく、感謝の極みであることを、ここでは記しておきたいということである!飲食物(寿司とビザ、そして飲みもの)の用意、そして、数々の誕生日プレゼント!何と幸せな高齢者なのであるか(否、そう思わなければ罰があたる!)!!

ということであるが、この間、そんなこんなで、何ともおかしな日々を送った私であるが、一つだけ残念なのは、折角大勢が集まって来てくれたのに、彼らと、個別な会話が、ほとんど出来なかったことである!まさに贅沢な悩み?と言われるかもしれないが、彼らの日々(その後の人生模様、苦労話も含めて?)を、多少聞かせてもらいたかつたということである!!もちろん、それは、私の一方的な願望であり、そのことをあまり望まない者もいる(現にいた!そして増えている?)!!だから、そつしたことは、最早時代錯誤(老害?)?そんなことさえ思つたりもしたわけである!!(井上)

○自尊心を育むには「コミュニティ」が必要!!

やはり、そうであった!! そんなことを思いつつ、ここでは、再びネット記事での標記のことを書いておきたい! それは、『今を生きる思想 ジョン・ロールズ』: そもそも『自尊心』とは、『自分が目指しているものが、価値があるものだと思うこと』『それを実現するだけの力が自分にはあるという自信』という二つの側面: 学習院大学教授玉手慎太郎氏が、政治哲学から見た『自尊心』について語る』である。

もちろん、すべて紹介することは出来ないが、(その) 自尊心のためには安心して参加できる人間関係やコミュニティが大事: 誰にでも、なにか一つでも: 自分を認められるようなコミュニティがあることが、自由につながる。そして、「なぜ自尊心が基本財と言えるほど重要なのか: 自尊心を欠いている人は、たとえ自由や機会や権利を与えられても、それを利用することができないから:」。

さらに、「: 正義が実現されている社会とは、「人々の利益と負担の調停が適切になされている社会」: そのなかで: 興味深い考え方として、「基本財」というものがある。: 「合理的な人間なら、誰もが欲すると想定されるもの」(たとえば「所得」): 仕事をがんばる生き方にせよ、趣味に生きる生き方にせよ、: どんな生き方を選んでも、所得は必要: なかでも、社会で分配をコントロールできるものを「社会的な基本財」と呼び: 社会的な基本財を十分に持っている人に、これをきちんと分配することができれば、正義にかなった社会が実現:」ともある!

要は、「社会的な基本財として『権利』『自由』『機会』『富』という4つにくわえて、『自尊心の社会的基礎』を挙げている点です」であるが、私は、それを、自らの生への『自己肯定』(納得)と呼びたいが、これが、今、危機に晒されているわけでもある!!

○漁師町の伝統 女人禁制の神楽にあこがれる少女

神楽響く私の「ふるさと」 青森・牛滝地区
久し振りに、NHK番組「Dear につぼん」を観た(12日)。番組案内によれば、「青森の小さな漁村で海の男たちが伝統の神楽を受け継いできた。ふるさとの神楽に憧れる女の子。女人禁制の風習に葛藤する姿に、漁師町の伝統を守る男たちはどう動くのか。: 去年の春、ひと組の夫婦が1男3女を連れて帰ってきた。小さな漁村の楽しみは、年に二回行なわれる伝統の神楽。『囃子をやりたい』と憧れる長女の聖奈ちゃん。しかし、神様が女を嫌うという理由で、100年以上の歴史で一度も女性の参加が許されたことはない。ひとりの女の子の願いを、伝統と生きてきた地区の男たちはどう受け止めるのか。それぞれの葛藤の日々を追う。」とある!

もちろん、番組を観た私であるので、なるほどということかと思うのであるが、私には、それ以上に、今の「教育」の危機とその解決方途を、ある種反転攻勢的に示しているようにも思えた!! いくつか、詳しく語りたい!

〈短歌に託して〉「答えは見えているのに:」!!

・時代を生きる! 自分を生きる!

その双方の力 が必要なのだ!

・百合の花 その後に続く 我のオチ!!
だがそれもまた 我が人生の花!!

・嬉しい話ではあるが 今度ほとんど勘違い!!
それでもよいのだ! 顔を見れば!

・自尊心 否、自らの生への納得
それは コミュニティによってのみ得られる!

・いみじくも 各自の生き様に すべてが関わる!
そこに 見出すべきヒントあり!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ②

○古代日向国の実像を求めて―その3―

先に、日向出身の「目下部氏(彦)熊襲族の一つ」の存在について触れたが、思えば、そこには、ある意味途轍もなく大きな謎が横たわっているようにも思える!! 言うのも、地理的には、まるで違う方向のそれ距離的にも! であり、しかも、それがまったく違った勢力(主権)であるならば、何故「目下部氏(彦)熊襲族」は、その北部九州と近畿大和の双方に顔を出すのか? だし、私自身は、そうした北部九州勢力と近畿大和勢力は、まったく違う出自の勢力とは考えておらず、その意味では、南部九州(日向)との関係には、それほど違和感はない? ただ、改めて複雑にはなるが!!

さて、それはともかく、よくよく考えてみれば、例えば、もし「日向三代」や「神武東征」の話が真実であれば、その地理的關係(矛盾)は、速やかに解消する! すなわち、「日向三代」の話が、北部九州と南部九州(日向)との、そして、「神武東征」の話が、南部九州(日向)と近畿大和との関係ということであれば、そこに関わっている南部九州(日向)の勢力(ここでは「目下部氏」)が、いずれにも顔を出すことは、ある意味自然なこととなる! ということである!! だが、北部九州と南部九州(日向)の関係として、北部九州には見られない「甕棺墓」が、南部九州(日向)の「阿多」にもある! という(であれば、それが「甕棺墓」の降臨語となっている!!)

とにかく、我々は、これまで、往々にして、北部九州が近畿大和かという視点で古代史の大枠を見てきたように思うが、他ならぬ南部九州(日向)との関係を加えた、言わば三すくみの史実存在に目を向ける必要が出てきたのである!! とは言え、そこに、「玉備」や「出雲」、そして、中国史書にはほとんど見えない?、縄文・弥生から続く東日本の勢力との出会い、軋轢、共存の歴史が絡まっている!! だから、これからは、そうした視点の重要性を意識しながら、「記紀」を始めとする文献、それと連動させた考古史料の考察が求められる! ということである!! (つづく) (堂本)

〔編集後記〕あつという間に、GWの後半も終わった! 入出の多さを理由(言い訳)に、今回も、ほとんど出発がなかった私(達)であるが、6月、そして7月には、少し遠出の旅でも思っている! 幸い7月の方は、福岡に行くことを決めたが(先程決まった)、それにしても、何らかの目的(口実?)は必要である!! それがないと、やはり心苦しくもあるのである!! (井上/堂本)